Saluton! SESanoj

20年前三省堂の「新明解国語辞典」をターゲットにした「辞書がこんなに面白くていいかしら」なんて名の本がＪＩＣＣ出版局からでた。 ”辞書を嗤う、権威を嗤う”をキャッチフレーズにしてたちまちベストセラーにのし上った、平行して新明解もヒット商品になった。 こんどは光文社から「船を編む」が出版、素っ頓狂な辞書編集部がなぜこんなに抜け落ちのない辞書を作れるかというお話、なかなか面白い構成だ。「岩波国語辞典」は初版から50年7版を数えるのにあの可愛いオチンチンの意味が載っていない。エスペラントの辞典にだってちゃんとkacoはあるしＰＩＶなら8例もある。船を編むで三浦しおんは新明解（第5版）の［恋愛］を取り上げている。岩国の同じ項目はあまりにも素っ気ないから［恋］で比較してみよう。［異性に愛情を寄せること、その心 本来は（異性に限らず）その対象にどうしようもないほど引きつけられ、しかも満たされず苦しくつらい気もちをを言う］と岩国（7版）にはある。一方新明解（7版）は5版より更に進化して［特定の異性に深い愛情をいだき、その存在が身近に感じられる時は、他の全てを犠牲にしても惜しくない程の満足感・充足感に酔って心が高揚する一方、破局を恐れての不安と焦燥に駆られる心理的状態］とある。さてエスペラントでは、PIVの［ａｍｉ］を見てみよう。意味は四つに分けて書いてある。

［①Havi seksan inklinon al iu, de kiu ni esperas precipe plezuron. ②Havi koran inklinon ai iu, kies feliĉon oni deziras,③ volonte kaj prezure uzi ion, ④volonte kaj prezure fari aŭ sperti agon .］

さあなたの心をどの辞書が最も良く捉えていると思いますか。岩国なら知性派、新明解なら庶民派、PIVなら国際派と言えませんか？